

若手教師・大学生の力量を高めるために

—少し違った角度から・・・『海部歴史教育研究会』の実践—

津島市立南小 浅井 厚視

1 『海部歴史教育研究会』とは

『海部歴史教育研究会』は①身近な地域の教材を発掘し、歴史読本を出版・刊行する ②社会教育団体（ロータリークラブ・法人会・商工会議所）と連携し「ふるさと検定」と「ふるさとクイズ選手権」を企画・運営する。そのための出前授業を行う ③様々な歴史イベントや講演会にあたり、海部地方の学芸員と協力して電子媒体による地域資料を作成する 個人の資格で参加する歴史を愛する教師のための自主研究会である。現在10～15名程度の会員。（出身大学・教科関係なし 会費は無料「来る者は拒まず去る者は追わず」）

この研究会の活動を通して、若手教師・大学生の基本的な力となる「教材研究」「教材づくり」「学習活動の企画・運営」する力量の形成を狙っている。

2 『海部歴史教育研究会』の取組

(1) 『尾張津島見聞録ジュニア版』テキスト作成と『津島の達人ジュニア歴史検定』

平成22年度『尾張津島見聞録ジュニア版』を作成した。商工会議所と法人会が資金提供。この歴史テキストは平成20年度に刊行した『尾張津島見聞録』を基にして、ゆるキャラの吹き出しによる語句やポイントの解説・重要語句のゴシック化・大型写真・インデックス・コラム欄の充実などをめざした。この歴史読本の作成にあたり、子どもたちにとってより身近となるように教材（テキスト）づくりを進めた。平成25年度には改訂版を刊行。いずれも各小学校に50部ずつ配布。800部印刷し、残部は商工会議所と市内の書店で販売した。（完売）

このテキストを基に平成23年度から『津島の達人ジュニア検定』がスタート。津島市内の小学6年生700名あまりが毎年受検。検定の結果は以下の通り。平成25年度より希望する学校（学級）で出前授業を実施。

項目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
市内6年生 受検者総数	704	707	668	618	618
市内6年生 全体の平均点	84.3点	82.8点	82.5点	85.5点	85.7点
市内で100点をとった児童数	139人 19.7%	97人 13.7%	114人 17.1%	138人 22.3%	158人 25.6%
市内で50点以下の児童数	44人 6.3%	46人 6.5%	58人 8.7%	37人 6.0%	28人 4.5%

(2) 『津島の達人ジュニア選手権』と『選手権直前ゼミ』

平成24年2月に西尾張CATV（ケーブルテレビ）の開局30年を記念し、『津島の達人ジュニア選手権』というクイズ番組を制作することになった。以来4年間クイズ選手権を実施。テレビ番組の企画・運営にあたることで若手教師の力量向上につながった。またこのクイズ番組のため、直前ゼミを実施した。

(3) 『海部歴史教育研究会』のその他の取組

平成23年度『あま市ものしり検定ジュニア版テキスト』を作成し、市内の全小中学校で出前授業を実施。平成24年2月から、市内の小中学生の希望者がものしりジュニア検定を受検することになった。平成26年度より市内の小学校6年生全員が出前授業を受け、検定を受検することした。また平成27年2月より西尾張CATVのクイズ番組として『あま市ものしりジュニア選手権』をスタートさせた。

今年度『尾張津島天王祭』がユネスコの世界無形文化遺産登録に手を挙げることになった。そこで津島ロータリークラブとNPOまちづくり津島から依頼を受け『津島の祭ジュニア検定』公式テキストを作成。夏休み前後に『祭りを学ぶI・II』の学習会を実施した。

3 若手教師・大学生の力量は高まったか（検定等に参加した若手教師・大学生の感想）

- 経年変化を見てみると、年々成績が良くなっていることがわかる。問題は少し難しかったが、テキストを勉強すると楽しいという感想が目立ち、教材の良さを実感した。
- 「寺社や街道を実際に見たり、歩いたりしたい」という感想があり、社会科の基本であるフィールドワークの大切さに気づいており、嬉しい気持ちになった。